

11/6
(金)**皆で歩き魅力味わう
鷹巢中で強歩大会**

鷹巢中学校(瀬戸口浩司校長・114人)では、11月6日、同校を発着点に行行人岳山頂を折り返す強歩大会が行われ、生徒たちは長島の秋の景色を楽しみながら汗を流しました。

伝統行事である同大会は今回、全校生徒112人が挑戦。行人岳山頂で昼食を取り、生徒たちは励まし合いながら全長約13・5^{キロ}のコースを3時間掛けてゴールしました。

3年生の浜空良さんは「皆と食べる弁当がおいし

かった。山頂からの景色を見渡して、自然豊かな長島のよさに改めて気付いた」と満足げでした。



マイペースに散策する生徒たち

11/6
(金)**平尾小の児童らが民話劇で伝承
語り継いでいきたい故郷**

11月6日、平尾小学校(宮ノ前香織校長・68人)で学習発表会がありました。

2年生の演目では、平尾集落にある「踊り石橋」の由来となった民話を劇に仕立て、披露されました。この民話は、大堂定憲さん(浜瀬)が40年前に町内で見聞きし、旧長島町広報紙に寄稿した50もの話の中の1つです。

村人がいたずら好きのタヌキを焼酎で酔わせ、踊って油断したところを捕まえる物語は、歌あり、踊りあり、長島弁ありと、会場を楽しませました。

大堂さんは「劇になったことに感動。子どもたちには、民話を通じて故郷を知り、さらに好きになってもらいたい」と話しました。



役になりきり、民話劇を熟演する児童ら

11/9
(月)**「社明運動」作文で県最優秀賞
明るく楽しい社会を**

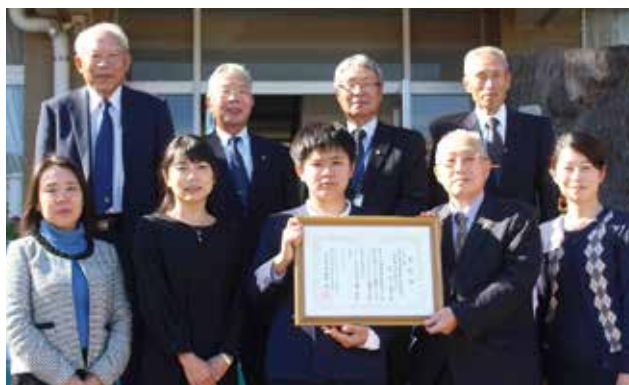
平尾小学校6年の山下^{こうが}煌月君が、第70回「社会を明るくする運動」作文コンテストの小学生の部で、県で最高賞となる鹿児島県推進委員会委員長賞を受賞しました。

同コンテストは小中学生に犯罪・非行防止の意識を持ってもらうことを目的に法務省が主催し毎年行っているものです。

「自分たちにできること」と題された受賞作は、自身が犯罪や非行に走った人の理由を考え、学校生活での経験から人に頼ったり、頼られたり

することが大事とまとめています。

山下君は「受賞できてうれしい。これからは作文で書いたことを意識して過ごしていきたい」と話しました。



受賞した山下君(写真前列中央)